

白山の火山活動解説資料（令和元年12月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 2）

白峰監視カメラ（白山山頂の西約 12km）による観測では、山頂部に噴気は認められません。

・地震や微動の発生状況（図3～4）

27日5時台に、白山の山頂（御前峰^{ごぜんがみね}）付近を震源とする地震が一時的に増加しました。27日の日地震回数は68回で、最大のマグニチュードは1.0でした。

その後、地震活動は低調に経過し、また低周波地震や火山性微動、及び噴気が観測されていないことから、火山活動は活発化しておらず、これまでも時折みられていた一時的な地震増加と同様の活動とみています。最近では 2019 年 3 月 6 日に一時的に地震が増加し、日地震回数は 59 回で、最大のマグニチュードは 1.1 でした。

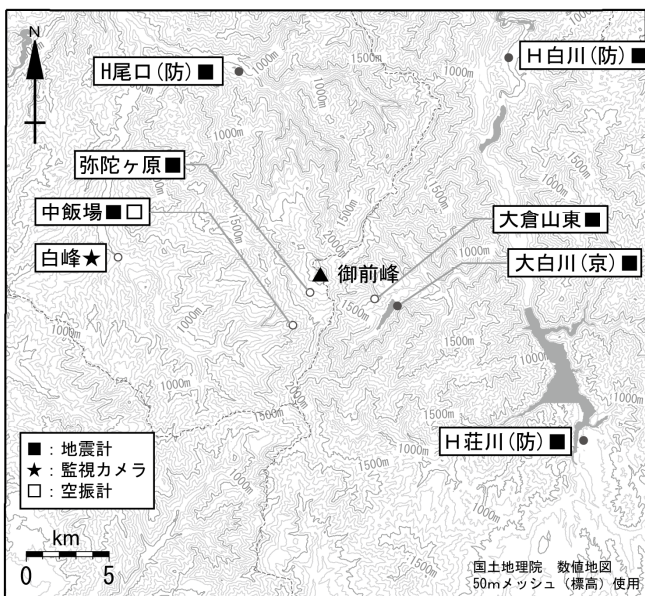


図1 白山 観測点配置図



図2 白山 山頂部の状況
(12月25日 白峰監視カメラによる)

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（令和2年1月分）は令和2年2月10日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、東京大学、京都大学、名古屋大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）

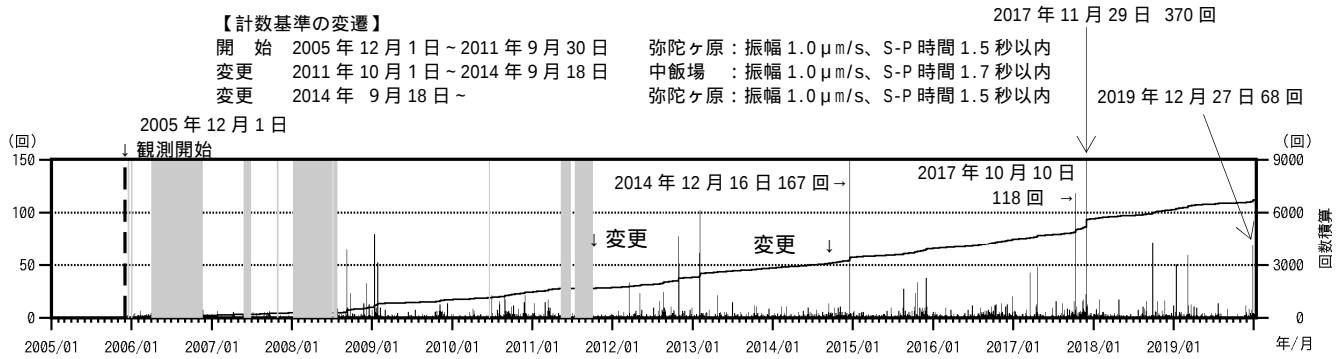


図3 白山 日別地震回数と積算回数（2005年12月1日～2019年12月31日）
図の灰色部分は機器障害による欠測期間

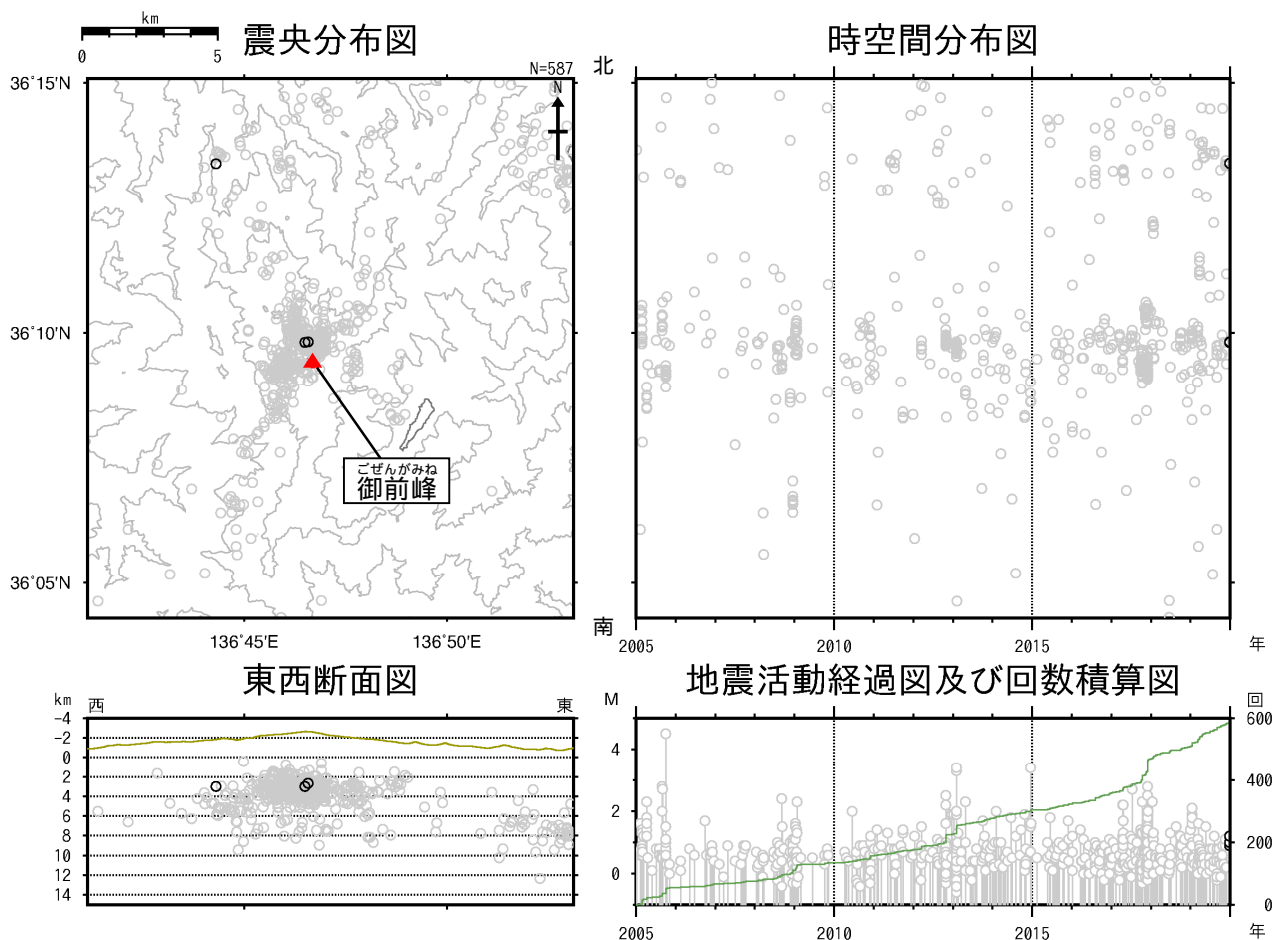


図4 白山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2005年1月1日～2019年12月31日）

- ：2005年1月1日～2019年10月31日 ○：2019年12月1日～12月31日
- 広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。
- M（マグニチュード）は地震の規模を表します。
- 図中の震源要素の一部は暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

- ・白山付近の地震活動は低調に経過しています。震源は主に、御前峰付近の海面下2～4km付近に分布しています。